中世城館の庭園遺跡

The Garden Sites of Castle in the Middle Age (14th~16th century)

田中 哲雄*
Tetsuo TANAKA

近年の中世城郭の研究では、城郭の縄張りの把握の深まり、歴史地理学における分布論や、城下町を含めた総構えの検討を含め、城郭を政治・社会構造との関連で歴史学・考古学・地理学・建築学などの学際分野の研究が欠かせない状況である。特に、現在遺存しているのは城の改修・改造された最終段階の姿であり、発掘調査の進展により、表面観察だけでなく、庭園を含め内部構造が解明されつつある。ここでは鎌倉時代を除く中世（14c-南北朝・15c-室町・16c-戦国時代-終わりの30年は織豊政権）の城館の庭園の発掘調査成果を中心にその特色を検討してみる。

1. 中世城館の城割り（地割り）と庭園遺跡

城館の立地・選地では、その目的、権力構造、戦いの変化などにより決められるが、南北朝期では山城が発達し、戦国期にその山城とともに低い丘陵に築かれた平山城が増加し、やがて江戸時代の平城へと移行すると考えられている。

(1) 山城の庭園遺跡

南北朝の山城では居住性に乏しく、自然地形の要害性を利用した純軍事施設であり、兵の駐屯施設はあるが、庭園のようなものは見られない。室町期にいたって、守護領国制がみられるようになると居館の最寄りの標高100~200m級の山城が守護の居城として一般化し、麓の居館とセットになるもので、平時の居館に対し、戦時の詰城という関係が生まれ、根小屋城郭が一般的となる。戦国期はいっそう顕著になり、戦国大名とその家臣団を包括する大山城（春日山城・安土城・岐阜城・観音寺城等）が築かれ、生活維持のための城下町も出現する。

山城の庭園遺跡では、戦国期に近江国守護職佐々木六角氏の居城である観音寺城跡（滋賀県安土町）、戦国末期の北条氏照の八王子城跡（東京都八王子市）、織豊期の徳川家康が二俣城攻略のため築造した鳥羽山城跡（静岡県天竜市-標高108.3m）などで検出されている。

・軍事的要素だけでなく、居住の空間も持つ総構え（城をとりまく家臣団屋敷や集落、さらに周囲の自然地形を生かして、大規模な空間を取り囲む）の山城である八王子城（標高470m・比高240m、1,600m×1,000m）では、城主の居館跡を中心とする主郭で、同様連郭式山城である鳥羽山城（標高108m、360m×300m）でも本丸で、自然の傾斜や石垣際に、礎石建物に合わせて枯山水の庭園が作庭されている。小規模であり、山城であることから、水の供給が十分でないこともあり、枯山水庭園が城主の居住空間の中心郭に限り作庭されたものであろう。観音寺城（標高432m、2,500m×2,000m）では本城内に六角領国内の有力家臣の平井丸で池泉石組庭園が、池田丸の南の郭で枯山水庭園を検出している。観音寺城は縄張りからみて、家臣団集住の過程の肥大化に伴い、

屋敷構えの縄張りの累積に止まり、城構えにはなっていないという指摘もあり、特異な形態の山城であることから家臣の屋敷にも庭園が作庭されたものであろう。

(2) 平山城

戦国大名の領国統一と家臣団の集中居住は集約的な町、城下町の都市の原型が出来上がり、居住面と戦国大名の権力構造に即した平山城・丘城が作られる。秀吉の天下統一後、戦国大名はおおむね平山城（岡山城・姫路城・福山城・熊本城等）であった。

平山城の庭園遺構としては、室町時代に能登守護職畠山義智が北能登の鎮台としての松波城跡（石川県内浦町）、奥州管領斯波氏の高水寺城跡（岩手県紫波町）、池田（大阪）の地を支配した池田氏の池田城跡（大阪府池田市）、南北朝時代に伊予国守護職の河野氏が築城し、戦国時代小早川・福島と城代が変わった湯築城跡（愛媛県松山市）などで検出されている。

・道後平野の石手扇状地の要に位置する湯築城（標高71m、比高36m、300m×350m）は、城山を三段の削平により曲輪を配置したもので、外堀と内堀の間の三段目の平場で、廃城直前の織豊期の上級武士の屋敷地で、園池(40㎡)を検出している。

・松波川の下流域で海岸近くに迫る低い丘陵先端に位置する松波城（標高30m・比高20m、200m×140m）では、丘の中央に本丸、東南の小丘に景勝台と称され、日本海の水平線の上に立山連峯が遠望出来る台地もあり、枯山水庭園(12㎡)を検出している。また東北方の院の山の中腹に茶亭がおかれたと伝えられている。

・北上川 中流域の穀倉地帯を一望のもとに収める独立丘陵にある高水寺城跡（標高180m、比高85m、550m×700m）は最頂長部に本丸を、南に二の丸、東に家臣の屋敷や姫御殿があり、内門跡の南東に園池を検出している。

・京と西国をむすぶ西国街道と大阪湾へ流れる猪名川が交差する交通上重要な地点に立地する池田城（標高50m、90m×100m）は、五月山の麓の高台が西側猪名川方向に突き出した地点を南北に堀を掘って独立した地形を作り出している。城の主郭の東南で枯山水庭園（写真-1）を検出している。

また発掘で検出された庭園でないが、名勝の旧秀隣寺庭園は、京都から北陸にぬける主要な間道で、重要な軍略的位置をしめる朽木氏岩神館（滋賀県朽木村-標高190m、120m×110m）にあり、河岸段丘上の平山城であり、前に小掠栖山を仰ぎ安曇川の清流を望む眺めの良い、しかも要害の地勢である。

平山城・平城・館では水陸交通の要衝を占める例が多いが、これは戦略的な機能はもちろん、商業経済、都市志向など全国的な活動を円滑に進めるための立地でもあった。

また、眺望の良いところの選地は見張りが出来る軍略的な意味で決められるわけであるが、庭園の背景・借景などの機能も工夫

*文化庁文化財保護部記念物課

写真-1 池田城主郭で検出した枯山水庭園

できる選地でもあり、作庭に当たり検討されている平山城があることがわかる。

(3) 平城

中世方形館の系統をもった在地支配主眼の城は次の居館で説明することとし、本格的な平城は秀吉の大坂城築城からで、城郭と城下町が同一レベルで計画的な区別がされるものである。

平城の庭園遺構としては、室町幕府から陸奥国守護に任命された伊達家の府城である梁川城跡（福島県梁川町）、摂津の豪族伊丹氏が鎌倉時代に伊丹城とした居館を信長のもとで摂津の大名荒木村重が整備した有岡城跡（兵庫県伊丹市）、秀吉が文禄・慶長の役に際し、その出兵のための軍事的拠点として築いた城の名護屋城跡（佐賀県鎮西町）と、城周辺に全国諸大名が集結して作った陣跡、河内平野の守護職畠山氏の高屋城（大阪府羽曳野市）などで検出されている。

- ・茶臼山北麓の阿武隈山地が西方に張り出す丘陵の突端部に位置する梁川城（200m×600m）の本丸の東辺で心字形の池の検出がされる他、最近の調査で城の東三の丸とも呼べる外郭で、菖蒲沢と呼ばれる湿地帯がめぐる所で園池・橋・池中の懸作の施設等が検出している。

- ・猪名川に面した伊丹台地の東縁部に築かれた総構えの有岡城（800m×1,700m）、伊丹城（150m×200m）では西郭の西南隅土塁沿いに園池（滝跡・導水路・洲浜）を検出している。

- ・複雑な凹凸をもつリアス式海岸と、標高30～130mの丘陵に形成されている名護屋城跡では、本城の上山里丸の西隣で自然地形の緩やかな傾斜をもつ狭い空間で露地遺構が、陣城では、堀秀治陣の本曲輪で露地遺構（写真-2）、同陣の北西曲輪・東曲輪、古田織部陣跡、木下延俊陣跡、木村重隆陣跡で飛石・雪隠など露地関係の遺構を検出している。

- ・石川下流の西岸、南の独立丘陵を利用して作られた高屋城（標高40m・比高15m、400m×800m）では、北端の築山古墳を本丸とし、中央部二の丸、南を三の丸とし、それぞれ土塁・堀がめぐる。Ⅱの郭の南の調査で調査区の南端で園池状遺構と石組溝を検出している。

平城では、総構えの構造になる例が多く、また立地の好条件から庭園遺構もバリエーションに富む形態のものが検出される。

(4) 居館跡

堀・土塁を有する方形館は、14cから16cの間に求められ、それ以前の居館は堀や溝に区画されていた。当初は軍事面より勧農の拠点としての居館として位置づけられてきたが、最近の研究結果で軍事面での立地の見直しが検討されている。

中世の居館跡の庭園遺跡では、阿蘇谷を根拠地とする豪族阿蘇社大宮司の隈部館跡（熊本県菊鹿町）、東大阪・大東・八尾などに及ぶ諸領を領有した水走氏館跡（大阪府東大阪市）など中世豪

写真-2 名護屋城跡堀秀治陣跡露地遺構

族の居館や、有力守護大名の守護所、領国の拠点となる北畠の多気館（三重県多気町）、大内氏の館跡（山口県山口市）、甲斐武田氏の親族衆として活躍した勝沼氏館跡（山梨県勝沼町）、信長に敗れるまで五代百年ほど越前の首府として栄えた戦国大名朝倉氏館跡（福井県福井市）、戦国大名吉川元春の隠居所である吉川元春館跡（広島県豊平町）など様々な居館の性格のもとで検出されている。

- ・有力守護大名の守護所である館の背後に山城がセットされ、北畠氏の伊勢守護所多気館と霧山城（標高560m）の例のように南東の山麓（標高330～340m）部の侵食台地を利用して形成された守護所の館（80m×175m）で東南二方に向かって開けた多気盆地とそれを貫流する八手股川とを一望にのぞむ、優れた景勝の立地を占めている。館の南側に庭園（名勝北畠氏館跡庭園）があり、周辺の発掘調査で石垣や15c中葉～後半の遺物が出土し、確実にこの時期に機能していることが確認できた。

- ・詰城一乗城山（標高473m）麓の谷間（標高50m）を城戸で防ぎ、屋敷地・城下町・寺院などを配した一乗谷朝倉氏遺跡の城戸の内、義景館跡・湯殿跡・諏訪館・中之御殿・南陽寺など当主一族の館跡で殿舎に伴う園池を中心とする庭園と武家屋敷では平庭を検出している。東の山裾を除く三方を濠と土塁で囲まれた義景館（70m×80m）では山裾東南隅部に園池（31㎡、滝石組・飛石）花壇等を検出し、湯殿跡（60m×25m）では比高36mの小山の西麓の段丘上で東南部に園池（100㎡、滝・導水路・排水路等）を、諏訪館跡では山城から流れた沢が作る発達した扇状地の先端の段丘上で、上下二段になり、段差を利用し滝石組が組まれ下段の園池（90㎡）を、中の御殿（52m×38m）では、段丘上に位置する屋敷の南に園池（70㎡）を、南陽寺（80m×55m）は段丘上に位置する寺の南の山裾で園池（20㎡）をそれぞれ検出している。

詰城の山城と山麓部の館がセットになり、館で庭園遺跡が検出される事例は多く、

- ・岩屋城（標高100m）の北250mの山麓部に位置する浜の館（熊本県矢部町一 220m×180m）では、東南の郭の北西隅で、土塁を背後に園池（180㎡）を検出している。

- ・能勢街道の交通要所にある野間城（大阪府能勢町一標高352m）の北300mの山麓部（標高260m）の尾根の一つの先端部で、約70m北に野間川が流れ、対岸に屋敷跡を配する野間氏居館（62×50m）は、Ⅱ郭に分け、北の広い郭西南隅に南の郭の段差（1.5m）の浅い谷地形を利用し、北の土塁を背後に園池（13㎡、滝組・石組）を検出している。

・篠脇城（標高 570m）の北 400m の山麓（標高 315m）、長良川支流の河岸段丘上にある東氏館跡（岐阜県大和町）で、館の南西隅に園池（中島・滝石組等）を検出している。

・詰城である豊田城（奈良県天理市一標高 190m）の西南 400m の山麓部（標高 85m）の二重の堀で囲まれた居館で、河に挟まれた扇状地に立地する豊田氏居館（45×52m）の北西隅に園池（56㎡）、遣水等検出。

・詰城の鴨ヶ嶽城（標高 688m）の 1 km 西に扇状地に位置する土塁と堀で囲まれた高梨氏居館（長野県中野市一70×86m）の南東隅に園池（35㎡、滝石組・遣水等）を検出している。

・詰城の猿返城（標高 682m）の 1 km 南西の山腹（標高 345m）に立地する隈部館跡（熊本県菊鹿町）で主郭（70×80m）の東で尾根の先端部を背後に園池（130㎡）を検出している。

河岸段丘上に位置する居館の庭園遺跡では、

・高原川中流域右岸の河岸段丘上で、南西は旧高原川の流れが 7 m の崖の段丘を分断し、東は標高 1327 m の二十五山から南にのびる支脈で、段丘の中央にある江馬氏下館（岐阜県神岡町一97m×114m）は東側を背後に残り三方を堀で囲み、館の南東隅に園池（450㎡、滝石組・排水路等）を検出している。

・法界寺の樺崎の谷の奥、樺崎川右岸の山麓を削って平らにした台地で、川に面しない三方を堀で囲んだ長氏館跡（栃木県足利市一50×40m）は、館の山側は、山の小尾根を削って堀を作り、その土を盛り上げて土塁とし、土塁の裾で浅い谷筋を形成している個所で、滝（土管による導水路）とそれにつながる山麓部の園池（80㎡）を検出している。

・日川右岸の河岸段丘上に立地し、対岸を往時の往還が東西に、西側は鎌倉街道が南北に走る交通の要衝にある勝沼氏居館（山梨県勝沼町）は、内郭（90×50m）は南と西は切岸で、北と東に土塁を回す形状で館の中央部で枯山水庭園を検出している。

・吉川氏の本拠である日山城から 3 km の西南麓、西から流れる志路原川が南向きに大きく湾曲する河岸段丘上にある、前面に志路原川、背後に低丘陵を控えた比高 8 m の台地上にある吉川元春館（広島県豊平町）では、石組をもつ築山・園池（写真-4）などを検出し、北の山を背景に取り入れている。

扇状地に位置する居館の庭園遺跡では、

・西側に当時の官道の東高野街道が通じる要衝の地で、河内平野扇状地上部（標高 61m）に位置する水走氏館跡（大阪府東大阪市一20m×35m）では、館の東北隅に小規模な池泉（70㎡）と S 字形の溝を検出している。

・扇状地の中央部に位置する一辺 160m、四周を堀と土塁で囲ま

れた大内氏館跡（山口県山口市）では、館の南東隅部で、園池（490㎡、中島・遣水等）一写真-3 を検出している。

・奈良盆地の西部で河川が合流して大和川となる所で、城山古墳（河合城に比定）の北西にある環濠をもつ吉田山城主義長の館と伝承される市場垣内遺跡（奈良県天理市）では、敷地の北西隅の土塁内側に池状遺構（60㎡）と排水土管などを検出している。

居館は、その性格、機能、立地などいくつかの種類があるが、検出された庭園遺跡は単郭でない場合は主郭にまた、その位置は単郭・復郭に限らず館の隅部に選ばれ、区画する土塁を背につくられる例が多い。また山麓部では尾根の浅い谷筋を利用して滝や滝石組みなどの意匠もみられる。

(5) その他

中世の城館の上記以外に関連する庭園遺構としては別荘や屋敷跡がある。

別荘では、戦国時代の国人領主関氏の正法寺山荘跡と、吉川元長が諸宗兼学の寺院として建設を企画し生存中は別邸として使用された万徳院などがある。

・正法寺山荘跡（三重県関町）は鈴鹿川の支流小野川の西岸の河岸段丘上に築かれ西は急峻な羽黒山（標高 200m）、北・南・東は大きく蛇行する小野川が天然の堀をなす要害の地に築かれた。中央の土壇を中心にそれを取り囲むように周辺は低い土塁で囲まれた小郭が配置されている城郭としての軍事的要素もつ山荘である。中央区画の南東隅で園池を検出している。

・万徳院（広島県千代田町）は吉川氏の本拠である日山城から続く、尾根南緩斜面で、両側を谷川で区切られ、南側を山門をもつ石垣で区画された寺院跡（別邸）である。西側の谷筋に排水路を兼ねた池・流れ（写真-5）が、北側には北を画する板塀で画し

写真-3 大内氏館跡庭園遺跡

写真-4 吉川元春館跡庭園遺跡

写真-5 万徳院寺跡庭園遺跡

た空間に滝組と小池をもつ小庭を検出している。

また、中世城館は引き続き近世城郭に使用される場合も多く、山城のように一部補強したり、改変する場合と、根本的に縄張りをかえて作り替えられる場合もある。近世城郭の調査で前身の中世城館の姿が検出される場合もある。

・仙台城三の丸（宮城県仙台市）の発掘調査で、前身の伊達政宗の屋敷跡と推定される個所で、池跡と茶室を検出している。また、同様に、駿府城本丸（静岡県静岡市）で前身の今川館の関連の遺構と想定される15c～16cの池状遺構と湧泉の施設などを検出している。

・有馬極楽寺（兵庫県神戸市）は文禄3年（1594）に作られた秀吉の湯山御殿で、「有馬温泉史料」によると、慶長の大地震で倒壊した御殿の修理明細書に化粧の間・湯殿・雪隠・湯屋・数寄屋などがあり、発掘調査の結果、茶の湯に使用する水を引き、小規模な滝で池に落とし、それを組む園池と、庭木の移植跡等を検出している。

以上、中世城館の地割りと庭園遺跡の関係をみてきたわけであるが、山城では数少なく、居住空間をもつ城郭で検出されるが、立地の関係から枯山水や小規模な園池に限定されるようである。平山城や、河岸の段丘で作られる城館の場合、もちろん軍事的側面から交通の要衝であり、監視や見晴らしが良い立地が選ばれるわけであるが、同時に眺望出来る景観をもつ側面もあり、庭園の背景に利用される場合もある。これは前述した旧秀隣寺庭園や、北畠氏跡庭園の他、庭ごとに比叡山を望み、淀川沿いの広い眺めもある酬恩庵庭園、亀山・嵐山の自然の地形を大きな築山のように見立てて作り出された亀山殿（天龍寺庭園）、紫野を展望し、比叡山の遠景を眺めることの出来た真珠庵庭園など同時代の京都の庭園の立地と意匠にも関連するものであろう。

2. 中世城館の縄張りとは庭園遺跡

城の選地後、縄張りという設計プランに入るわけであるが、中世・戦国期では、区画は曲輪で称され、中心の曲輪は、根城・実城・本城・一曲輪などとよばれ、曲輪の名称が本丸・二の丸という丸にかわるのは、1590年代からで、慶長年間以降は丸が多く使われるようになる。庭園遺構が検出されている曲輪は、山城では、城主の居館のそばに、また平山城では、本丸等主曲輪で検出される例が多い。復郭の居館の場合もI郭（主郭）で検出される場合が多く、いずれも城主の居住空間として設置される例が多い事にもよる。

虎口（城の出入口）と庭園の関係では、曲輪の隅や、土塁等区画施設沿いに位置することが多い庭園では、虎口から奥まった所に設置される例が多いようである。これは建物と庭園の配置との

関係もあり、藪の空間の配置との関係もあるようである。

庭園と関係の深い曲輪では、山里曲輪があり、山里曲輪は、城内に軍事的なことを一切考慮せず、庭を作ったり茶室を設けた日常生活を行う曲輪で、信長の安土城に起源があるといわれ、秀吉の城内（名護屋城・伏見城・姫路城・淀城・聚楽第・石垣山）に必ず存在したといわれ、家康も名古屋・駿府城等に作っている。また近世、江戸城では吹上も山里曲輪の別称と考えられ、山里庭番・山里庭方など警備する役人も出来るし、山里曲輪が城下になると、水戸城－階楽園・金沢城－兼六園・岡山城－後楽園・会津若松城－御薬園などが出来る。

名護屋城跡で山里丸中心城の西隣で、南北30m×東西17mの自然の傾斜をもつ狭い空間で、検出した飛石・玉石敷・茶室と考えられる小規模な建物（写真－6）などは、茶室空間のために秀吉が作らせたものと考えられる。今回検出の茶室は大阪城山里丸に設けられた二畳敷の数寄屋を肥前名護屋城に移築され四畳半に改められ、さらには伏見城の山里丸に運ばれたというもので、また博多商人、神屋宗湛が残した「宗湛日記」に山里丸の茶室開きの際の茶室の構造の描写が調査結果と一致すると考えられている。肥前名護屋城絵図に山里丸が描かれ、木立の中の茅葺きの建物の位置も今回の検出地点と一致している。

山里曲輪は、名護屋城では本丸の北西、姫路城では本丸の南に上山里丸があり、部分的な調査であるが秀吉時代の以降を確認している。石垣山城では本丸の東に想定されている。同様の名称と思われる、丘陵先端部にある御茶屋郭（岩槻城）、お茶屋（安土城跡）、御茶屋（小谷城）などのほか、御茶屋山（丸）の名称で呼ばれる曲輪との配置の比較の検討が必要である。また、肥前名護屋城図にみられる山里丸は自然林に近い景観（写真－7）をしており、お花畑、松の丸などの名称などとの関連を含め、山里丸の形態の検討も必要である。

まとめ

以上、中世城館の庭園遺跡の立地と縄張りの関係を中心にみてきたわけであるが、庭園遺跡が部分しか検出されない例や、近世以降の改変や、中世300年の間の変遷などがあり、遍年的に明確に区分するには、発掘調査データを集める必要があるが、城館庭園の立地的特色や、配置、形態などが一部ではあるが、あきらかになった。中世山城では、初期の軍事的要素だけでの山城では庭園は無く、戦国大名にみられる居住空間を持った総構えの城では、庭園が主郭部で検出されるも規模は小さく、枯山水の例が多い。居館では、居館としての館や、戦時の山城（詰城）と平時の麓の館の関係をもつ館（図－1）などで庭園の検出事例は多く、建物の関係や、晴れと藪の機能の関係等で居館の隅に土塁等の区

写真-6 名護屋城跡山里丸茶室・飛石遺構

写真-7 山里丸全景（名護屋城図屏風）

画施設等を背に立地する場合が多い(図-2)。山麓部の庭園の立地は、山裾に園池を設けたり、段差を利用して滝組が作られることが多いが、一乗谷朝倉氏遺跡(図-3)で見られるように、各台地の山裾で各谷筋から流れる水を導水路等で引き入れ、園池を造成している事がわかる。また平山城や河岸段丘上の庭園遺跡では、周辺の眺望の良さが、景観も考慮した庭園の配置等が考えられていたことがわかる。

これら中世城館の庭園文化はどのように伝播してきたかをみると、もちろん当時の武将達の文化的環境は、統一政権の支配下に入った西国と、戦国の争乱が本格化した奥州では築城面を含め差があり、また中世初期と末期では大きな差があるのも事実である。

戦国大名は文化的教養面においても国人領主の上に立つ必要があり、周防の大内氏(大内氏館)、越前の朝倉氏(朝倉氏遺跡)、駿河の今川氏(今川館跡)など文化人名と呼ばれる人は、在京中に公家などから教をうけたり、能登の畠山氏のように宮中の学者を居城に招き文化を吸収している場合もある。また連歌師宗祇・宗長などを通して中央文化を吸収する北信の有力国人領主高梨氏(高梨氏館跡)や、累代歌道にすぐれた家柄の美濃の東氏(東氏居館跡)は九代常縁が連歌師宗祇に古今伝授を行っている文化人であった。また、連歌師宗牧の「東国紀行」に平井丸(観音寺城跡)から領地豊浦が眺望されたことが記されている。

茶の湯は武将のステータスシンボルであり、信長は家臣団の統制の一つとしてとりいれ、恩賞として茶器の名品を与えたり、茶会を開く権利を与えたりした。茶室は俗世間から逃避できる場所にあり、精神的くつろぎと一味同心が図れる効用をもっていた。一乗谷朝倉氏遺跡の武家屋敷、名護屋城陣屋跡などで、茶庭関係の露地遺構が多く検出されている。遺構が削平されていても、遺跡内で多量に出土する茶道具や花器などと合わせて庭園と座敷文化の広がりが、またかわらけの大量の出土は都市型の消費生活を

代表する器で、都市(京都)志向をしめす指標であると考えられている。今後庭園遺構だけでなく、出土する遺物の検討も必要となり、解明されることにより、中世城館の庭園の実態がより明確になるものと思われる。

図-1 詰城と館跡の庭園遺跡

図-2 館跡内の庭園遺跡

図-3 一乗谷朝倉氏遺跡 館跡庭園の立地

発掘調査報告書

- 1) 「八王子城跡」1982.1985～1991 確認調査報告書，八王子市教育委員会
- 2) 「遠州鳥羽山城跡昭和 49.50 年度発掘調査報告」，1976，天竜市教育委員会
- 3) 「観音寺跡整備調査報告書」 1971 滋賀県教育委員会
- 4) 「松波城跡－昭和 54～56 年度発掘調査概報」，1982，内浦町教育委員会
- 5) 「池田城跡－主郭部発掘調査概要報告 I」，1990，池田市教育委員会
- 6) 「梁川城本丸庭園発掘調査復元整備報告書 I」，1986
- 7) 「茶臼山北遺跡現地説明会資料」，平成 8 年 9.11 月，梁川町教育委員会
- 8) 「名護屋城跡並びに陣跡発掘調査報告書」，1～3，1979.83.85，佐賀県教育委員会
- 9) 「高屋城発掘調査概要 7」，1981，大阪府教育委員会
- 10) 「有岡城跡発掘調査報告 6」，1988，伊丹市教育委員会
- 11) 「浜の館跡－阿蘇大宮司居館跡－」，1977，熊本県教育委員会
- 12) 「東郷地区遺跡群発掘調査概要（野間氏居館跡）」，1989，大阪府教育委員会
- 13) 「東氏居館跡発掘調査報告書」，1984，大和村教育委員会
- 14) 「高梨氏居館跡発掘調査報告書」，1993，中野市教育委員会
- 15) 「隈部館跡」 菊鹿町文化財調査報告 第 2 集，1993，熊本県鹿本郡菊鹿町教育委員会
- 16) 「江馬氏城館跡発掘調査概報」，1979，神岡町教育委員会
- 17) 「入谷遺跡（長氏居館跡）発掘調査実績報告書」，平成 8 年度，足利市教育委員会
- 18) 「勝沼氏館跡調査概報 I～V」，勝沼町教育委員会
- 19) 「水走館跡の調査－東大阪市埋蔵文化財調査概報 12」，1973，東大阪市教育委員会
- 20) 「大内氏遺跡発掘調査概報 1～10」，1980～89，山口市教育委員会
- 21) 「1991 年度埋蔵文化財発掘調査報告－市場垣内遺跡発掘調査概報」，1992，河合町教育委員会
- 22) 「一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書」，1979.90.93.，福井県教育委員会